

標本研究の軌跡をたどってみませんか？



東京大学総合研究博物館 ハンズオン
研究のモノ語りにふれるハンズオン・ギャラリー

東京大学総合研究博物館 マクロ先端研究発信グループ共同活動

Hands On

東京大学総合研究博物館は、多岐にわたる分野で標本を用いた先端研究に取り組み、成果を世界に発信しています。その道程は、ヒト(研究者)とモノ(学術標本)との巡り合い、そして対話の積み重ねから築かれます。研究者による解説を聞きながら、学術標本を手にとり、研究の軌跡をたどってみませんか。

8/7(水)

【総合研究博物館】

- 10:15~11:15 トーク&ギャラリー「文明の起源を探る—メソポタミア先史考古学の今昔」
- 11:30~12:30 トーク&ギャラリー「ワニ—進化のモノ語り」
- 12:45~14:00 AMSラボ公開「炭素14を測る小型加速器質量分析装置」
- 14:15~15:15 トーク&ギャラリー「海研究の軌跡—ウナギをめぐる大航海」
- 15:30~16:30 トーク&ギャラリー「隕石・月の石が語る太陽系の姿」

【タンデム加速器研究棟】

- 10:00~12:00 / 14:00~16:00 AMSラボ公開「500万ボルトタンデム加速器研究棟ツアー」

8/8(木)

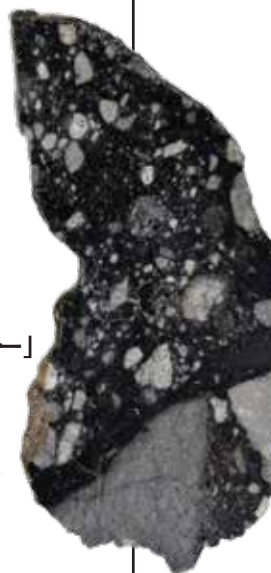
【総合研究博物館】

- 10:15~11:15 トーク&ギャラリー「隕石・月の石が語る太陽系の姿」
- 11:30~12:30 トーク&ギャラリー「文明の起源を探る—メソポタミア先史考古学の今昔」
- 12:45~14:00 AMSラボ公開「炭素14を測る小型加速器質量分析装置」
- 14:15~15:15 トーク&ギャラリー「ワニ—進化のモノ語り」
- 15:30~16:30 トーク&ギャラリー「幸せの国に潜む幻のチョウを追う」

【タンデム加速器研究棟】

- 10:00~12:00 / 14:00~16:00 AMSラボ公開「500万ボルトタンデム加速器研究棟ツアー」

会場／東京大学総合研究博物館(東京大学本郷地区)
東京大学タンデム加速器研究棟(本郷地区浅野キャンパス)



東京大学総合研究博物館
The University Museum, The University of Tokyo



Hands On

研究のモノ語りにふれるハンズオン・ギャラリー

2019/8/7 水・8日 木 10:00-16:30

トーク&ギャラリー「文明の起源を探る—メソポタミア先史考古学の今昔」(7日 10:15~、8日 11:30~)

1956年、文明発祥の地・イラクで初の日本隊による遺跡調査が実現した。以来、数々の困難を乗り越え、その学問的伝統は受け継がれている。半世紀余りを経たず、かつて収集された資料はどのように活かされるのだろうか。

(小高敬寛／総合研究博物館／近東考古学)

トーク&ギャラリー「ワニ—進化のモノ語り」(7日 11:30~、8日 14:15~)

生きている化石とされてきたワニ。しかし、恐竜絶滅後に大陸を隔てる海を越えダイナミックに分布を広げた進化の歴史が明らかになってきた。形態や生物地理の解析からわかるワニの進化や科による移動能力の違いを紹介する。

(久保泰／総合研究博物館／古脊椎動物学)

トーク&ギャラリー「海研究の軌跡—ウナギをめぐる大航海」(7日 14:15~)

1973年、東京大学の学術研究船「白鳳丸」によるウナギ調査航海が始まった。広大な海原でどのように産卵場まで辿り着いたのか？数々の仮説と検証を繰り返して卵の発見に至ったウナギの調査航海の軌跡を紹介したい。

(黒木真理／農学生命科学研究科／水圏生態学)

トーク&ギャラリー「隕石・月の石が語る太陽系の姿」(7日 15:30~、8日 10:15~)

1969年、アポロ11号が月に着陸し、初めて人間により月の石が持ち帰られた。同じ年、日本南極地域観測隊は南極から隕石を持ち帰った。隕石や月の石に記録された太陽系の姿を標本とともに概説する。

(新原隆史／工学系研究科／隕石学・鉱物学)

トーク&ギャラリー「幸せの国に潜む幻のチョウを追う」(8日 15:30~)

1933年に発見されたブータンシボリアゲハ。その後の追加記録が途絶え、「幻のチョウ」と化したヒマラヤの貴婦人が、2011年に日本とブータンとの共同調査により再発見された。ブータン国王により贈呈された標本とともに、このチョウの研究史が今語られる。

(矢後勝也／総合研究博物館／昆虫自然史学・保全生物学)

AMSラボ公開「炭素14を測る小型加速器質量分析装置」(7・8日 12:45~14:00)

放射性同位体炭素14は一定の速度で壊れていくため、生物の遺骸などの炭素14を測ることでいつのものであったのかを知ることができる。加速器質量分析装置は炭素14を測るための装置で、その実物を間近に見ながら解説する。

(尾寄大真／総合研究博物館／年代学)

<同時開催>

AMSラボ公開「500万ボルトタンデム加速器研究棟ツアー」(7・8日 10:00~12:00 / 14:00~16:00)

5階建てビルを貫くように設置された縦型のタンデム加速器は、イオンを最大500万ボルトの電圧で加速することで、高精度の加速器質量分析(AMS)を可能にし、宇宙や地球の歴史の解明に貢献している。加速器棟を探検しながら、AMSや応用研究に触れてみよう。

(楠野葉瑠香／総合研究博物館／加速器質量分析・宇宙地球化学)

場所:タンデム加速器研究棟(本郷地区浅野キャンパス)

※一度に見学できる人数に限りがありますので、ご案内は先着順です。

◆参加要領

事前申込不要、参加無料。小学生以下は保護者の同伴をお願いします。

【問い合わせ】

東京大学総合研究博物館事務室 TEL: 03-5841-2802

<http://www.um.u-tokyo.ac.jp>

【会場】

東京大学総合研究博物館(本郷地区)〔東京都文京区本郷 7-3-1〕

東京大学タンデム加速器研究棟(本郷地区浅野キャンパス)〔東京都文京区弥生 2-11-16〕

